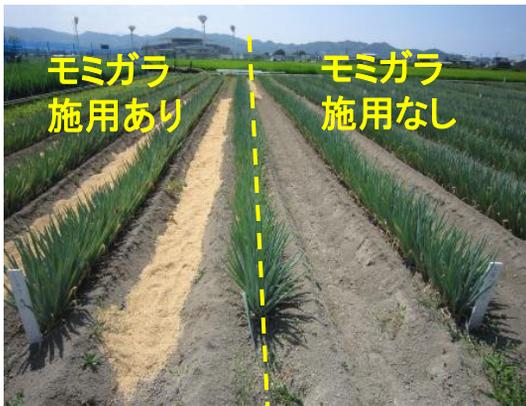


転作白ネギ土寄せ時における モミガラへの施用効果

土寄せ時にモミガラを通路に施用することで、畝表面の乾燥を促進し作業可能日数が増えたり、雑草が抑制できる、また土寄せに使う土の一部を代替できるなどの効果が期待できます。



①土寄せ前にモミガラを通路に施用(写真は10ℓ/m)



②施用したモミガラごと土寄せ(降雨後でも入りやすい)



③通路や畝の表面乾燥が早い

雨の後は雑草の発生が増加しますが、モミガラが混ざって早く乾燥することで発生を抑えられています。

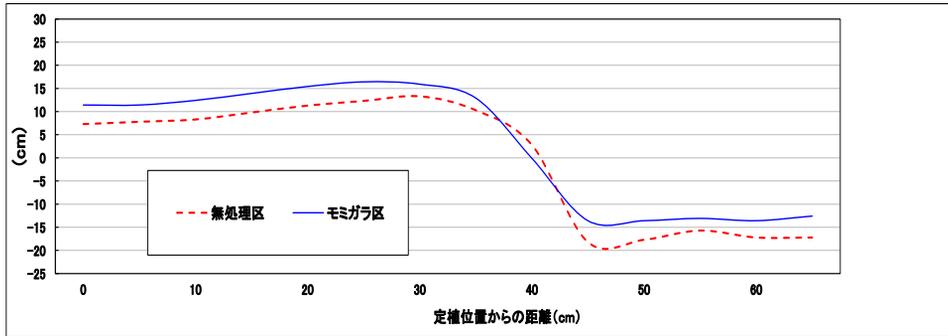
第1表 土寄せ作業可否調査(2014年)

	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	9月7日	9月8日
降水量	1.0	0.0	0.0	15.5	0.0	16.0	0.0	0.0
無処理区	△	△	△	○	○	×	×	△
モミガラ区	○	○	○	○	○	×	×	△

	9月9日	9月10日	9月11日	9月12日	9月13日	9月14日	9月15日
降水量	0.0	0.0	8.0	0.5	0.5	0.0	0.0
無処理区	△	△	×	×	×	△	△
モミガラ区	○	○	×	×	△	○	○

雨の後作業
のできる日が多くなります

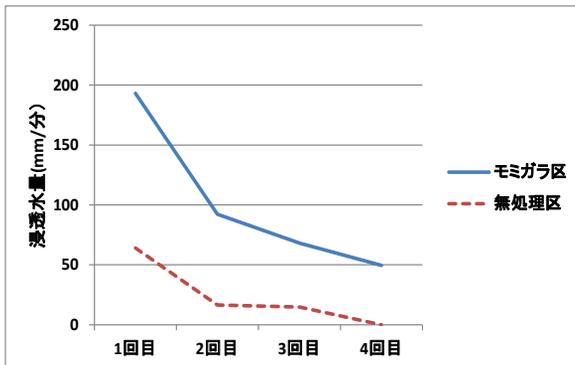
注) 通路の状況が○：土寄せ可 △：土寄せ可だが滞水等で部分的に不可 ×：土寄せ不可
9月3日に各処理区で作業を行い確認。他の日は9月3日の状況と比較し達観で判定。



第1図 畝形状調査(2015年 最終土寄せ後)

土寄せに使える土の一部がモミガラに置き換わっています。

収量は同等以上です。



第2図 畝排水性調査

注) 畝肩に設置した塩ビ管内の水(水深250mm)が排水される時間を連続4回計測し、1分あたりの畝への浸透水量を算出。

第2表 白ネギ収穫調査(2015年)

試験区	上物本数 (本/a)	上物収量 (kg/a)	ケース数 (ケ-ス/a)	L以上率 (%)
無処理区	3954	507	135	84.8
モミガラ区	3863	551	142	88.3

注) 7/15、10/7に各10ℓ/mのモミガラ処理を実施

モミガラが混ざることによって畝の排水性が向上し、土壌表面の乾燥につながっています。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、水田転換畑(灰色低地土)における結果である。
2. 本試験は、モミガラ施用量を通路1mあたり1回10ℓとし、栽培期間中の土寄せ時に2回処理、秋冬白ネギを条間110cm、通路幅約40cmで栽培した圃場における結果である。
3. 前作で白絹病の多発生が認められる連作圃場においては、モミガラ使用を控える。

問い合わせ先: 鳥取県農業試験場 作物研究室
電話: 0857-53-0721

※本書から転載複製する場合には必ず左記に許可を受けて下さい。